

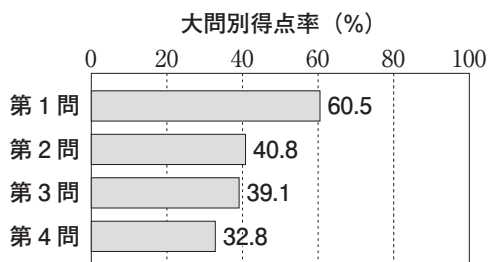
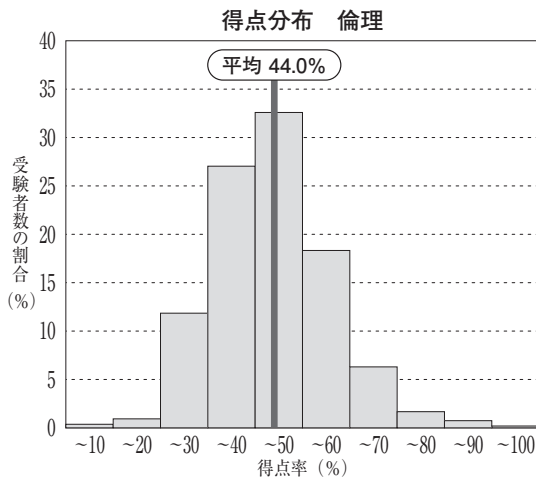
倫 理

夏休みが始まるまでに、倫理を学習したという痕跡を残そう。

I. 全体講評

今回の2017年度「第2回4月センター試験本番レベル模試 倫理」の平均点は、44.0点であった。前回2月の模試と比べて、約4点上昇している。一方、各大問の得点率を見ると、第1問は60%を超えているが、他の大問は40%台または30%台と、いずれも低くなっている。

模試を受ける意義は、来年1月のセンター試験本番で目標点を超えるべく、着実に一步一步前進していくことにある。前回の講評と同じことを繰り返すが、センター試験の倫理は2013年度に難化し、その傾向が2017年度になっても続いている。その難化した試験に対応するためには、自分が間違えた問題をしっかりと復習し、二度と同じ誤りを繰り返さないようにする必要がある。今回、点数的に進歩がなかったとしても焦る必要はない。諦めず、学習を進めてほしい。



II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

知識問題に対応できるようになろう。

第1問の得点率は60.5%。問2〔2〕、問3〔3〕、問4〔4〕のように特別な知識を必要としない問題の正答率が高く、得点率をやや上昇させる要因となったが、問6〔6〕、問7〔7〕、問9〔9〕のような知識が要求される問題は正答率が低かった。問7〔7〕は環境問題についての問題であったが、誤答の⑥が正答の②を上回った。⑤は石牟礼道子とカーソンの正誤判断を誤っており、知識のないことが明白である。また、問9〔9〕は空欄cで多くの受験者が誤った。語感で功利主義を選んだのであろうが、そのような選択方法では正答にたどり着くことはできない。第1問に関係する事項はそれほど多くないので、しっかりと基礎を固めること。

第2問 源流思想分野

正誤判断のポイントとなる語句を見つけたい。

第2問の得点率は40.8%。問1〔11〕以外の正答率は軒並み低く、問3〔13〕と問8〔18〕は20%台、問2〔12〕に至っては10%台という結果となった。そのうち、問8〔18〕はブッダの縁起についての問題であるが、誤答の④を半数弱の受験者が選択し、同じく誤答の①を選択した受験者も一定数いた。これらの受験者はブッダの用語の整理ができていないので、用語集などを用いて用語の意味を確認しておこう。また、問2〔12〕はアリストテレスの徳についての問題であった。選択肢の文章は抽象的に見えるかもしれないが、それぞれ「観想的な生活」、「善く生きる」、「心の平静こそが真の快樂」というように正誤判断のポイントとなる語句や文章が示されている。一通りインプット作業を終えたら、問題を解くときにそれを見つける訓練をしよう。

第3問 日本思想分野

日本思想と源流思想は深いつながりがある。

第3問の得点率は39.1%。正答率も総じて低く、特に、問1 [20]と問4 [23]は20%台であった。問1 [20]は清明心についての出題であるが、神話の内容としては正しい文章になっている。解答の分散を見るとほぼ四分されており、受験者は手がかりを何も見出せなかったようだ。このような問題に対応するためには、何が問われているのかを落ち着いて考え、問われていることがどの選択肢に当てはまるかを考えたい。問4 [23]は林羅山についての問題であった。選択率を見ると、空欄bを礼とする⑤が正答の⑦とほぼ並んでいる。朱子学ではすべての事物や事象の根本を何と呼んでいたか。教科書や用語集の朱子学のページに戻って確認しよう。

第4問 西洋近現代思想分野

教科書や用語集の記述を一つ一つ丁寧に押さえていこう。

第4問の得点率は32.8%。こちらの正答率も総じて低く、10%台が2問(問1 [29]と問5 [33])であった。問1 [29]はバーコンについての問題である。特にイドラはセンター試験で頻出と言える。また、自然についての言葉もセンター試験で問われることがあるので、しっかりと内容を含めて覚えておきたい。問5 [33]はヘーゲルの弁証法について深く問われており、現段階では対応できないのもやむを得ないと言える。西洋近現代思想は難解であるから、教科書や用語集の記述を一つ一つ丁寧に押さえていこう。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆倫理全体のアウトラインをつかもう。**

倫理の学習はこれからという受験者も多いだろうから、ここでは今後の学習の指針について概括的に述べたい。1学期は主要科目である英数国の基礎力強化を優先すべきである。とは言え、ここ数年のセンター本試験の難しさを見るかぎり、何もしいまま夏休みを迎えては手遅れとなる。そこで、1学期は倫理全体の大きな流れをつかむことを最低限の目標としよう。できれば教科書を一通り見た上で、夏休みまでに初学者向けに丁寧に書かれた参考書を読み通すことに挑戦してほしい。

◆読解問題を落とさない。

センター試験の倫理では、本文の趣旨読解問題が出題される。しかし、今回の模試では、第2, 3, 4問の趣旨読解問題の正答率が40%前後であった。この種類の問題は倫理の普段の学習では対策がとりにくいので、同種の国語の問題で力を磨きたい。本番での趣旨読解問題の正答率は高いことが多い。必ず得点できるようにしよう。

◆次回の模試に向けて。

上述のように、主要科目に比べて倫理にはなかなか勉強の時間が割けないと思われる。だからこそ、東進の「センター試験本番レベル模試」をベースメーカーとして、2か月のサイクルで集中的に学習するのが効率的である。倫理全体の大きな流れをつかむことと並行して、今回の模試を反省材料として、「源流思想をまんべんなく押さえる」というように、次回に向けての目標を具体的に絞ろう。それを9か月間積み重ねていけば、12月には全範囲が終了し、本番では必ず高得点を得られるだろう。